

洗足学園音楽大学ファンファーレオーケストラ 第30回定期演奏会



2021年 6月19日(土) 15:00開演
(14:30開場)

洗足学園 前田ホール

主催:洗足学園音楽大学・大学院

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。



Program —プログラム—

Bert Appermont : Morning star variations

B. アッペルモント : モーニング・スター変奏曲

Kevin Houben : Lake of the moon

K. ホーベン : 月の湖

Johan de Mail : Pentagram

J. デ=メイ : ペンタグラム

- I. Introduction
- II. Capriccio
- III. Song without words
- IV. Alla Marcia
- V. Finale

—休憩—

Dmitry Dmitrievich Shostakovich (Arr. Naoya Takizawa) : Festive overture, Op.96

D. ショスタコーヴィチ (滝澤尚哉 編曲) : 祝典序曲 作品96

Dmitry Dmitrievich Shostakovich (Arr. Shinichi Iwamoto) : Ballet suite from 『the Bolt』 Op.27a

D. ショスタコーヴィチ (岩本伸一 編曲) : バレエ組曲「ボルト」 作品27a より

- I. 序曲
- II. 官僚の踊り
- III. 荷馬車引きの踊り
- IV. コゼルフの踊りと彼の友人達
- VI. 破壊者
- VIII. 全員の踊りと大団円



Program Notes 一曲目解説

モーニングスター変奏曲 (B.アッペルモント作曲)

Morning star variations (Bert Appermont)

ベルト・アッペルモントは1937年ベルギーのリンブルフ州ビルゼンで生まれ、ヤン・ヴァン＝デル＝ローストラに師事して作曲、指揮などを学んだ。作品は吹奏楽編成によるものが多く、多様なレベルとスタイルで内容の高い作品を発表し続けている、注目の作曲家である。

この曲は1599年に出版されたコラル集に収められているプロテスタントのコラル「輝く暁の明星のいと美しきかな」のメロディーを題材とした作品である。このメロディーは終わり近くまで姿を現さず、それまではメロディーの断片を様々な方法で変化させている。

また、ヨハン・ゼバスティアン・バッハらによるオルガンのための「コラル幻想曲」を模倣しており、一般的な変奏曲より構成はとても自由である。この曲の大きな構成は、堂々たる導入部から鋭角的な雰囲気をもつアレグロへ、その後各楽器のソロを中心とした美しく静かな中間部を経て、ユーモラスな雰囲気が強調されたアレグロの再現部、そしてコラルの原型が煌びやかに奏でられるコーダとなっており、ヨーロッパの作曲家ならではの品格溢れる作品である。

打楽器専攻 4年 北野 佑芽

月の湖 (K.ホーベン作曲)

Lake of the moon (Kevin Houben)

この楽曲には、かつて存在した文明の、その誕生の軌跡が綴られている。

アステカ人の起源はシベリアとモンゴルにあるとされ、新しい住処を手に入れるためにベーリング海峡を渡り、狩猟を行いながら北アメリカを南下した。

やがて、メキシコ中央高原をさまよっていた所に、テスココ、アスカポツァルコ、クルワカン、シャルトカン、オトンパンなどの都市国家が存在するメキシコ盆地に辿り着き、テスココ湖湖畔に定住した。

それから1325年、サポテンに止まっている蛇を加えた鷲を見たアステカの人々は、太陽神ウィツィロポチトルの教えにより、湖の小島に新しい都市、テノチティランを築いた。テノチティランはナワトル語で「石のように硬いサポテン」を意味しており、今はメキシコシティとして賑わっている。

ケヴィン・ホーベン氏はアステカ文明の歴史を深く読み解き、Lake of the moon (月の湖) を作曲した。

曲中には、東洋音楽と南アメリカ、ロシア音楽のリズムが含まれており、突発的に雰囲気を変える表現力も聴きどころである。

ユーフォニアム専攻 2年 佐々野 広雅

ペンタグラム (J.デ＝メイ作曲)

Pentagram (Johan de Mail)

作曲者のヨハン・デ＝メイは、1953年11月23日オランダのヴォーブルクで生まれ、ハーグ王立音楽院で音楽教育を受け、バンドの指揮とトロンボーンを学んだ。

ファンファーレ・バンドの為の『ペンタグラム』は1990年フリスク・ファンファーレ・フェスティバルによる委嘱作品として作曲された。ヨハン・デ＝メイ氏の吹奏楽作品(交響曲第1番『指輪物語』『ネス湖』『水族館』など)とは異なり、彼のファンファーレ・バンドの為の最初の作品となった『ペンタグラム』(五角形)には標題音楽としての意味は無く、5つの楽章から構成されているという事と、主要な主題が5つの音から作られている事に関係しているだけである。曲名から連想される五音階でもない。

各楽章を通して主題が関連づけられながら発展し、正五角形を描くように見事にまとめられている。「五角形」は古くから一つの概念として意味を持って用いられていた。ピタゴラス学派は「ペンタファ」と名づけ、中世の時代には「ソロモン王の封印」など、主に災いを免れる符号として象徴的な有用性を持っていたようである。悪魔やその他の悪霊の活動に深刻な支障を与える符号としてゲーテの『ファウスト』においても『ペンタグラム』(五角形)がメフィストフェレスにその効力を発揮する場面が描かれている。

ホルン専攻 3年 浅田 万結

祝典序曲 作品96 (D.ショスタコーヴィチ作曲 / 滝澤尚哉 編曲)

Festive overture, Op.96 (Dmitry Dmitrievich Shostakovich / Arr. Naoya Takizawa)

旧ソビエトの作曲家、D.ショスタコーヴィチが作曲した管弦楽曲。

この作品は1954年にモスクワのポリショイ劇場で行われたロシア革命37周年記念演奏会で披露された。

この曲は管弦楽曲で作曲されたが、後年、吹奏楽用に編曲され大変な人気を博し、吹奏楽のコンサートでも演奏機会の多い人気作品である。オーケストラ版よりも遙かに演奏機会は多い。

Fanfare Orkestオリジナル演奏では冒頭のトランペットの3拍子で華やかなファンファーレからスタートする。

その後のソプラノサクソ、フリューゲルホルンの目まぐるしく駆け回るような連符が入り、中間部に現れるホルンはとても流麗で抒情的だが、ここでもその旋律は終始スピード感を失うことなく演奏され、このままクライマックスへと向かう。

最後は再び冒頭のトランペットのファンファーレが「バンダ」と呼ばれる金管楽器の別動隊を加えて華やかに響き渡り、クライマックスを迎える。

終始スピード感を失わない颯爽とした魅力に溢れる作品。クラシック初心者の方でも気軽に楽しんで聴けるため、是非このFanfare Orkestオリジナルの演奏、旋律がどの楽器で演奏されているかなど耳を澄まして欲しい。

トランペット専攻 3年 浜田 ほむら

バレエ組曲「ボルト」 作品27a より (D.ショスタコーヴィチ作曲 / 岩本伸一 編曲)

Ballet suite from 『the Bolt』 Op.27a (Dmitry Dmitrievich Shostakovich / Arr. Shinichi Iwamoto)

D.ショスタコーヴィチ(1906~1975年)ソビエト連邦時代の作曲家である。ショスタコーヴィチの作曲した娯楽音楽は大変な数にのぼる。そして、これらの作品にも交響曲、協奏曲、弦楽四重奏曲のような真面目な音楽の場合と同様に彼の才気や想像力が込められている。ショスタコーヴィチは、自らの欲する音楽と国の体制が求める音楽との乖離に葛藤したロシア革命を主題にした曲も多く作り出した。

バレエ『ボルト』は、ソビエト連邦の官僚主義者達を諷刺した作品である。初演は、1931年4月8日にマリンスキーの舞台で行われた。初演の後、70年以上に渡り再演されることはなかった。この作品は27曲から成る。バレエ興行としては、上手くいかなかったものの作品に使用される楽曲の評価は非常に高く、本日の演奏会では、6曲(序曲・官僚の踊り・荷馬車引きの踊り・コゼルフの踊りと彼の友人達・破壊者・全員の踊りと大団円)から成る組曲を演奏する。

『ボルト』は、革命後ソビエトで起きた諸問題を主題にしている。怠け者のレーニカ・グーリパは、呑み仲間達と共に工場を解雇される。第一次5ヵ年計画遂行中のソビエトでは怠惰は許されなかった。革命後、労働者は呑気に暮らせると思っていたグーリパは復讐を思い立ち青年ゴーシャを唆し機械にボルトをねじ込み壊させる。だが、労働者のモラルを自覚したゴーシャはその企てに気づき、管理者に密告するのでグーリパは逮捕される。

サクソフォン専攻 4年 黒澤 望愛



©K.Miura

現田 茂夫 (指揮)

東京生まれ。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京藝術大学で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1985年安宅賞受賞。96年より13年間神奈川フィルハーモニー管弦楽団を指導し飛躍的に躍進させ、その功績も称えられ2009年より名誉指揮者の称号を得る。他の主要オーケストラとも数多く共演し高評を得ている。また、世界的チェリスト故ロストロポーヴィチと上皇后陛下の古希祝賀コンサート等で共演し高評を得ている。オペラ指揮者としても経験豊かで、東京二期会、関西二期会での指揮も数多くの公演を行なっている。02年からは錦織健プロデュースオペラの音楽監督も務め2年ごとに全国公演。11年はアンサンブル金沢と金沢歌劇座・兵庫県立芸術文化センター他(5都市6公演)で“椿姫”を公演。14年には市川右近(現三代目市川右團次)新演出“夕鶴”の全国公演も行い高評を得、16年に再演を行った。また、ベドロッチェ国際指揮者コンクール(イタリア)の審査員や、NHK-FMラジオのパーソナリティを3年間務めるなどバラエティに富んだ活動を行なっている。

洗足学園ファンファーレオーケストラ

Concert Master	伊吹 梓						
Sopranino Saxophone	清水 建吾						
Soprano Saxophone	今川 萌	角谷 滯	清水 建吾	石田 真彩	加藤 恵莉菜	山崎 遼介	
Alto Saxophone	黒澤 望愛	本間 美桜	寺東 春美	下藤 香花	八木 寛菜		
Tenor Saxophone	辻 水紀	川口 華菜	水野 加奈子	阿部 未来	中原 雄太郎		
Baritone Saxophone	岡本 彩花	山中 杏実	酒井 優希	大澤 茉依	鈴木 ましろ		
Bass Saxophone	岡本 彩花						
E♭ Cornet	植田 優花	加藤 早弥乃	竹内 大輝				
Flugel Horn	伊吹 梓	芦川 大樹	丸岡 三希子	草野 あんず	池谷 彰恩	江原 春香	鹿野 円香
	石垣 静流	鈴木 みのり	錦古里 愛	樋口 萌々花	渡辺 寛子		
Trumpet	垣本 真夢	宇津木 清来	佐々木 右京	谷口 諒	富永 倫	濱田 ほむら	藤田 雄大
	堀江 風雅	神山 柁紀					
French Horn	小秋元 歩	後藤 陸歩	末永 廉	浅田 万結	西川 宗辰	半崎 愛理	梶田 茉朋
	田中 鈴夏	山本 海音					
Trombone	出田 希乃	長坪 海斗	永吉 彩花	平野 結梨香	三浦 健	林天祺	裏木 りりあ
	佐藤 頼星	サイエン ジエン 伴 芽衣菜					
Baritone	谷田 果奈美	市村 結衣	大島 成実				
Euphonium	加藤 千聖	佐々野 広雅	清水 榛菜				
E♭ bass	鈴木 湧太	渡部 陽菜	遠藤 愛奈				
B♭ bass	岡田 侑也	高島 佳樹	長谷川 夏帆	澤田 翔也			
Percussion	小栗栖 未久	北野 佑芽	馬島 啓	松井 菜々子	大塚 愛美	田代 万莉子	栃下 紗奈
	中嶋 遼	林 英希	福本 奏音	前田 歩都	前田 伶弥	加藤 海夏太	阿南 杏佳
	小川 友季江	熊谷 彩夏	柴田 貴丸	山野 智広	YANG YIDA	渡辺 優生	椎名 萌
Harp	三谷 真珠子*						
Organ	原田 真侑*						
*…演奏補助要員							
企画運営責任者	露木 薫						
副責任者	岩本 伸一	滝澤 尚哉					
	松元 宏康	成田 徹	貝沼 拓実	上田 仁	神代 修	古田 賢司	本間 千也
指導教員	五十畑 勉	久永 重明	池上 亘	菅 貴登	府川 雪野	山口 隼士	新井 秀昇
	岩黒 彩乃	次田 心平	渡邊 功	中村 祐子	野本 洋介		
授業助手	北野原 由依						
アカデミックコーディネーター	野崎 江里						